令和６年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号	１１９Ｂ

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる　～気づく、考える、動く～

評価する領域・分野	教育活動の充実（キャリア教育）
現状及びアンケートの結果分析等	アンケートでは、小学部段階からのキャリア教育の充実を意識し、人との関わりを大切にした授業づくりに取り組んだことに対し、よい評価を得ることができている。今後はさらに個に応じた教材・教具の工夫を図り、個々の教員がキャリア教育の視点をもち、学習の結果だけでなく児童生徒の言動や表情等を細やかに観察し、気づきや思考、主体的な動きという学習のプロセスを大切にしながら教育活動を進めていけるとよい。また、児童生徒の主体的な姿やそのための手立てを、保護者や地域の関係機関等に周知、情報共有することは、卒業後の本人の特性や願いに応じた生活にもつながると考える。教員自身もキャリア教育について研修を深め、卒業後への見通しもちながら教育活動を充実させていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・全校で人との関わりに視点をおいた授業づくりを行い、授業改善を図る。 ・中学部、高等部における、キャリアアップの時間の充実を図る。 ・中学部、高等部の取組について小学部の児童や教師、保護者に周知を図る。 ・保護者や教職員が進路支援に関して学ぶ機会を設ける。
重点目標を達成するための校内組織体制	・特別活動を授業研究の場とし、教務研修部と学習支援部が連携し、人との関わりに視点をおいた授業づくりをすすめる。 ・生活進路支援部中心に中・高等部のキャリアアップの取組の充実を図る。 ・生活進路支援部による保護者や教職員への情報提供や、研修会を実施する。
目標の達成に必要な具体的取組	・特別活動の時間に全校縦割りのグループをつくり、スローガン「ともに」を意識しながら、人との関わりに視点をおいた授業づくりをする。 ・児童生徒の表情や言動等を観察しながら、授業展開、教材・教具、支援の仕方を工夫し、授業参観等で客観的な意見を得ることで授業改善を図る。 ・中学部、高等部がMS、MSJリーダーズ活動で、挨拶、清掃活動に取り組む。 ・中学部、高等部のキャリアアップの取組や紙漉き製品を地域へ紹介する。 ・卒業後を見据えた高等部キャリアアップウィークの取組(校内作業実習、事業所見学、現場実習)の充実を図る。 ・小学部に向けてキャリアアップの時間の取組を紹介する。 ・保護者向けにキャリアアップウイークの取組を紹介し進路通信を発行する。 ・教員向けの進路研修会を実施する。ＰＴＡ主催の進路研修会に協力する。 ・キャリア教育段階表を教員に向けて周知する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・全校縦割りのグループごとに、特別活動で授業研究を行ったことで、人との関わりに広がりは見られたか。 ・中学部、高等部におけるキャリアアップの時間の取組を、地域と関わりながら充実させることができたか。 ・中学部、高等部のキャリアアップの取組について、児童や保護者は具体的に知り、理解を深めることができたか。
取組状況・実践内容等	・児童生徒の実態、課題別の全校縦割りグループで授業研究を行った。 ・経験の違いや部の違う教員をグループに配置し、授業研究をすすめた。 ・高山市警察署生活安全課の協力も得ながら挨拶、清掃活動を実施した。

	・全国高等学校総合文化祭において紙漉き作業のワークショップを実施した。 ・小学部向けに、紙漉き製品のチケット交換会と作業体験会を実施した。 ・保護者の希望を踏まえた施設見学や現場実習等を実施し、小６、中学部、高等部の懇談会に進路指導主事が同席した。 ・進路通信で保護者向けに進路支援の取組を発信した。また、キャリアアップウィークや卒業生の情報を、保護者向け進路研修会の際に提供した。 ・職員進路研修会、ＰＴＡ進路研修会で、事業所の見学会を実施した。

評価の視点	評価
① キャリア教育について理解を深め、日々の授業の充実を図ることができたか ② 保護者と連携してキャリア教育に取り組み、児童生徒や保護者は、卒業後の生活について見通しをもつことができたか。	A (B) C D A (B) C D
成果・課題	**総合評価**
○実態別の縦割りグループで授業研究をし、教員の配置を工夫したことで、後輩にやさしく接する姿が見られたり、教員間で活発な話し合いが行われたりした。 ○MS、MSJ リーダーズ活動や、地域や小学部に向けた紙漉き作業のワークショップにより、自分たちの取組を知ってもらい、人から認めてもらう経験ができた。 ○事業所見学や卒業生の情報提供により、保護者は卒業後のイメージがもてた。また、中学部・高等部生徒は、事業所見学や実習により、個に応じた進路を考えることができた。 ▲縦割りグループ活動で得られた成果を、各学級の取組に還元できるとよい。 ▲キャリア教育段階表を作成したが、十分な周知や活用ができなかった。 ▲児童生徒のニーズや進路支援が多様化している。自立活動中心の生徒のキャリアアップの取組の充実等、個に応じた適切な支援を行っていく必要がある。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・全校縦割りグループでの活動は継続しつつ、その成果を各学級の活動に生かした実践を行う。 ・キャリア教育の段階表を見直し、活用方法について教員に周知する。 ・生活進路支援部を中心に、保護者や教員に向けたキャリア教育に関する研修会等を実施し、理解を深め、よりよいキャリア教育を推進する。 ・本校と連携した事業所説明会等により保護者が情報共有する機会を設ける。 ・中学部、高等部の実態を踏まえて、キャリアアップの時間の取組を見直す。 ・児童生徒の具体的な姿や教育の手立てを地域に向けて周知する。

学校関係者評価　（令和６年１２月１６日実施）

意見・要望・評価等

・キャリア教育について、教員の研修を深め、教員によって知っている知識の差がないようにできるとよい。
・学校が新たに挑戦しようとする姿がよい。児童生徒は教員の背中を見ており、保護者もうれしいと思う。
・作業学習では丁寧な作業をしており、見て確認できるような工夫や、常に教員が見守る体制がある。
・就労継続支援Ａ型の事業所では、安全第一、正確な作業、スピードを求めている。スピード面で力がつくように工夫するとよい。また、生徒が考えて動くことも大切にして、身に付けてほしい。
・一人一人の多様なニーズに対して、福祉事業所が対応する難しさがある。高等部卒業時点での事業所との関わりではなく、高等部１年生からの関わりが大切になると考えている。
・児童生徒が主体となった進路選択のために、福祉事業所の特色や理念を理解する場があるとよい。
・学校運営協議会において、５年先、１０年先の構想をもとに、学校と連携していきたい。
・縦割りでの活動は、先輩にあこがれ、活動の意欲が出てよい。